

\*校訓；「本気」 \*学校教育目標；「生き生きと学ぶ子」・「心の豊かな子」・「はつらつと健康な子」

三島市立東小学校長 渡辺 輝彦

## <津波てんでんこ>から学ぼう、「命」の重み

(……「夏休み」家庭で、地域で、話し合ってみませんか?)

<津波てんでんこ>という言葉、耳にしたことがありますか? 「東日本大震災」で大きな被害を受けた岩手県の釜石市において、10年計画で進められてきた「津波防災教育」での“合言葉”ともいえるものです。

<津波が来たら、てんでばらばらに、家族のことさえ気にせずに一人で避難せよ>……表面的には冷たく聞こえますが、家族がそれぞれで避難していることを信じ合えていれば、いざという時、各々が避難することに専念できるという、「自らの命に責任を持つこと、家族との信頼関係を築くこと」が、この言葉の本質なのです。

「どこにいても、ぼくは自分でしっかり逃げ切るから、お母さんはお母さんで必ず逃げ切つてね。」

「分かったわ。絶対に逃げ切つて、後で必ず迎えに行くからね。」

……このような、「家族の絆が無くて、<津波てんでんこ>は成り立たない」ということです。——群馬大学大学院の片田敏孝教授が、この釜石市で進めてきた「防災教育」により、あの大地震後の津波襲来時に、学校の管理下にあった小中学生の全員が無事だったのです。これが、<<釜石の奇跡>>と呼ばれているものです。

中学生たちは、人員点呼を行うことよりも先に、坂道を駆け上がりました。校舎の3階に避難させようとしていた小学校では、中学生が逃げる姿を見て、それを追いかけてきました。それにつられるように、大人も逃げ始めました。

「防災教育」が、学校から家庭、そして地域へ波及していたからこそ、率先して逃げる中学生にみんなが従えたのです。……より安全な場所をと、次々に避難場所を上へ上へと移していき、最終避難場所まで下を見下ろした時には、すでに、「街が無かった」ということでした。

さて、今年も6月下旬に、「東小校区・地域防災教育推進連絡会議」が開かれました。

この会では、東小を避難所とする地区の自治会長・防災担当者、三島市の危機管理課の職員・現地配備員、そして、東幼稚園と東小学校の職員が一堂に会し、災害時の対応についての意思統一を行っています。

<「津波てんでんこ」の意識を教訓にしよう!>——今年は、市の危機管理課からの説明も具体的できめ細かく、参加者の皆さんの防災意識を強く刺激できたように感じました。



会合終了後には、東小に納められている「備蓄品」の確認を参加者全員で行いました。「体育館」には、現在、

「飲料水袋(10ℓ用)」;100枚 「毛布」;500枚

「スティックパン」;4250食分 が保管されていました。

また、運動場北側の「防災倉庫」には、「野外テント」;2張 を始めとして、

「バルーン水槽(1t用)」;2基 「ポリタンク水槽(0.5t用)」;2基

「ろ水機」;2台 「飲料水袋(3ℓ用)」;200枚 「発電機」;4台

「投光機」;10台 (「トイレ対策用品」も各種備蓄されていました。)



……その外にも、障害物を除去するための「スコップ」・「チェーンソー」等、情報を得るための「ラジオ」・「電話機」等、調理機器としての「炊飯器」・「バーナー」、燃料としての「ガソリン」・「灯油」、そして、「ハンドマイク」・「リヤカー」・「空気入れ」・「ビニールシート」等、避難所の運営に欠かせない様々な物を確認しました。

しかし、備蓄されているからと安心するのではなく、これらの物を地区の「防災訓練」で実際に使ってみて、使い慣れておくことも大切でしょう。（「スティックパン」も、市の承諾を受けて味わっておきたいものですね。）

地区によっては、「防災訓練」への参加者を増やそうとマンネリ化を払拭するような内容を工夫してみたり、避難所での一番の働き手となるであろう中高生を巻き込んだ訓練にしたいという目標を掲げたりしています。

「釜石」に、そして<津波てんでんこ>に学び、私たちも、まずは<自分の“命”は、自分で守る>ことを念頭に、<自分たちの“命”は、自分たちで守る>という意識を持ち続けていきたいものです。



なお、5月末には、教職員・保護者合同の「救急救命法講習会」が開かれ、「AED」が到着するまでの<心肺蘇生法>の手順と、「AED」が到着後の2段階に分け、少人数ごとに実践練習が行われました。

夏休みには「プール開放」もありますので、参加者は誰もが、万が一の事態を想定して真剣に取り組みました。

<人の“命”を守るためにできること>……一人でも多くの人が、いざという時に自分から動き出せるような社会になっていくことを願っています。

子どもたちだって負けてはいません。6月中旬には、高学年の「参観会」に合わせて、6年生が「交通安全リーダーと語る会」を開きました。

「参観会」だからといって、参観者は“保護者の皆さん”ばかりではありません。教育委員会、警察署・交通安全協会にも声をかけ、各自治会長、スクールガードの皆さんもお招きして、多くの大人を前に、自分たちが調べ上げてきたことを発表する場としたのです。

子どもたちは、校区内の各地区ごとに5～6人前後の班を作り、自分が分担する地区の“交通事情”に関する調査を行い、それをまとめてきました。どの班も、寸劇やペープサート、クイズ等を盛り込み、小道具を使い、お客さんを引きつける工夫や伝わりやすい工夫をしていました。

この日までの学習過程の中で、そして、この日の様々な方々との触れ合いの場を通して、<自分の“命”は、自分で守る><自分たちの“命”は、自分たちで守る>ことの大切さを再確認し、さらには、子どもにだって、<人の“命”を守るためにできること>はあるという確信が持てたかもしれません。



学校ではそのほかにも、年度当初に、新1年生を対象に、「交通安全教室」や「防犯教室」を行っていることはご存知だと思います。

これも、まずは、<自分の“命”は、自分で守る>ことの大切さを意識づけるための場を設けているのです。



その上でさらに、多くのスクールガードや地域の皆さんの、<人の“命”を守るための活動>に支えられていることに感謝申し上げます。

この「連携だより『つ・な・ぐ』」は、「学校だより『本気』」の紙面でお伝えしきれない部分を補うために発行していきます。主に、学校の教育活動にかかわる“保護者の皆様・地域の方々の活動”をご紹介します。家庭・地域と学校との架け橋にしていきたいと考えています。御意見・御要望等がありましたら、遠慮なくお寄せください。

なお、今年度も、東小の教育活動をできるだけタイムリーに発信しようと、「東小学校のブログ(ホームページ)」こまめに更新するよう努めていきます。関心のある方はのぞいてみてください。

担当；西原 昌俊<教頭> 電話；055(975)0110<東小>

